

練習問題 1 動詞が文の要

- 1) Let me apologize (to you) for what I have done to you.
「～させてください」という許可をもらう表現は *let me v* や *allow me to-v* で表すことができる。「謝る」は自動詞で *apologize to (人) for (内容)* となる。謝る内容は「あなたにしまったこと」で、先行詞を含む関係詞 *what* を用いて *what I did to you* としてもよいが、現在完了形を用いて *what I have done to you* とし、その行為が現在に影響している(だからこそ申し訳ない)ことを示すことができる。*do something to you* で「あなたに何か(悪いこと)をする」。
- 2) The police didn't mention the cause of the accident at all.
「警察」は *the police* のように定冠詞をともう集合名詞で「警察総体」を表し、*people* などと同様に動詞は複数呼応することに注意 (cf. *The police say ...*)。「事故の原因」は *the cause of the accident* となる。「～について触れる」は *mention, refer, say, tell* などの「言う」という意味の動詞があるが、それぞれの語法に注意。*mention* は他動詞なので、*mention the cause* となり、*refer* は自動詞で *refer to the cause* のように前置詞をともう。「一言も」という強調は *(not) at all* でよい。*say* や *tell* を使うと *say nothing about the cause, tell us nothing about the cause* で「一言も話さなかった」とすることができる。

表現ノート (A) : 自動詞と他動詞

- ▼ She married [got married to] a rich man.
「彼女はお金持ちと結婚した。」: *marry* は他動詞、受動態では前置詞が *to*。
- ▼
- 1) discuss (the matter)
 - 2) talk (about the matter)
 - 3) reach (the station)
 - 4) get (to the station)
 - 5) look (her) in the eyes
 - 6) survive (the accident)
 - 7) contact (her)
 - 8) consider (a plan)
 - 9) complain (about the food)
 - 10) resemble (each other)
 - 11) (raise) oneself up
 - 12) (lay) oneself down

表現ノート (B) : 賞罰動詞

- ▼ We thanked him for his kindness.
「私たちは彼の親切に感謝した。」: *thank* は他動詞なので目的語をとり、「感謝の内容・理由」は *for* で示す。
- ▼
- 1) (praise) him (for)
 - 2) (admire) him (for)
 - 3) (punish) him (for)
 - 4) (scold) him (for)
 - 5) (blame) him (for)
 - 6) (accuse) him (of)
 - 7) (criticize) him (for)
 - 8) (charge) him (with)
 - 9) (apologize) (to) him (for)
 - 10) (excuse) him (for)
 - 11) (forgive) him (for)
 - 12) (congratulate) him (on)

練習問題 2 「言う」の受動態

- 1) She intentionally told him the wrong number.
「間違った電話番号」は *the wrong (telephone) number* となる。*a different number* は、彼女に通じる電話番号が複数存在している時に使い、結局彼女と連絡が取れることになる。「教える」は「(知識や技術など込み入った内容を)教える」わけではないので、*teach* ではなく *tell* となり、*tell (人) (内容)* と二重目的語構文をとる。「わざと」は「うっかり」の反対で「意図的に」ということなので *intentionally* という副詞を使うか、*on purpose* という前置詞+名詞を使って表すことができる。
- 2) It is said that people make mistakes no matter how careful they may be.
「～と言われている」は *It is said that...* や *They say that...* や *We hear that ...* などで表現する。「人間」は *human beings* や *humans* または *people* でもよい。「間違いを犯す」は *make mistakes* という基本動詞+目的語で表せる。「どんなに注意深くても」という譲歩節は *no matter how careful they may be [are]*, または *however careful they may be [are]* となる。譲歩節の位置に注意。日本文の順序のまま、*No matter how careful people may be, it is said that they make mistakes.* としないこと。譲歩節は *It is said that ...* の *that* 節の中に位置しななければならない。

表現ノート (C) : 「言う」の表現

- ▼ We were told to clean up the mess before dinner.
「夕食前に散らかっているものを片付けるよう言われた。」
- ▼
- 1) speak (本義:「言葉を発する」)
 - 2) said (本義:「内容を伝える」)
 - 3) tell (本義:「人に伝える」)
 - 4) tell (嘘は人につく)
 - 5) says (言っている内容と違う)
 - 6) speak (*ill* は副詞, \leftrightarrow *well*)
 - 7) say (悪い内容を言う)
 - 8) speak (言葉を発してこない)
 - 9) say (言う内容通りに)
 - 10) tell (相手が目的語)
 - 11) say (内容が目的語)
 - 12) speaking (「言う」という自動詞)

表現ノート (D) : 紛らわしい形容詞

- ▼ The price of the new car is high.
[The new car is expensive.]
「新車の値段は高い。」: 主語が *price* の時は、形容詞は *high/low* となる。
- ▼
- 1) funny (おかしい)
 - 2) interesting (興味深い)
 - 3) broad (幅が広い)
 - 4) big (空間が広い)
 - 5) empty (あるべき物が無い)
 - 6) vacant (使用されていない)
 - 7) normal (正常な)
 - 8) ordinary (ありふれた)
 - 9) strict (厳格, 厳密な)
 - 10) severe (程度が甚だしい)
 - 11) ashamed (自分の中で)
 - 12) embarrassed (他人に対して)